



5 万分の 1 水理地質図の新刊

# 福島県郡山盆地 水理地質図

日本水理地質図 28

著者 森 和 雄 (環境地質部)  
池 田 喜代治 (環境地質部)

発行 工業技術院地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62-5050

- 阿武隈川流域でもあり 東北本線沿線でもある。主な駅名を北から挙げれば杉田・本宮・郡山・須賀川等であり南北30数kmの細長い地域である。東側は阿武隈山脈を構成する花崗岩・結晶片岩地帯 西側はいわゆるグリーンタフ地域に属している。元来水の取得が容易でないこともあり 猪苗代湖を水源とした安積疎水による灌漑網が広範囲に発達し その一部は上水道水源ともなり 郡山市・本宮市などの上水道の大部分をまかなっている。
- 中心部の郡山盆地は第四系郡山層などからなり その厚さは約70mであり 盆地での主要な被圧地下水の帯水層である。またそれ以深には盆地西半分ではグリーンタフのグループに入る砂岩等 盆地東半分では花崗岩がマサとして存

在すればそれぞれ帯水層となっている。郡山南部から須賀川市一帯までは 白河石英安山岩質凝灰岩で構成される丘陵性地形をなしており 同凝灰岩および下位の地層が帯水層となっている。

- 帯水層の横への拡がりについては さく井資料に基づく南北・東西の地質断面図 あるいは郡山層の基底等深度線などで表現されている。一方被圧地下水の1井当りの取得可能量は 4段階に分けて地区別に表示している。例えば 1,000m<sup>3</sup>/day の地区・1,000~1,500m<sup>3</sup>/day の地区等。また自由地下水の比較的大量の取得可能地区等をも表示してある。
- 地下水の水質については30数試料について一覧表として示してあり これに基づき 「化学組成」を図示し 水質型を地域別 あるいは地層別の3種類に分類している。また塩化物イオンと弗化物イオンが相関を示し これらの高濃度のものは盆地の東側に分布する。そのうちの塩化物イオンについては等値線で表示してある。

地質ニュース	第294号	2月号
昭和54年2月1日	定価 ¥450	千50
編集	発行	
発行人	工業技術院 地質調査所	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の16	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 32462	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	